

令和8年度 全国学力・学習状況調査の分析結果

令和8年度	全国学力・学習状況調査
実施主体	文部科学省
調査対象	小学6年生、中学3年生
調査内容	学力調査 小学校（国語、算数）、中学校（国語、数学、英語） 学習状況調査 児童生徒アンケート・学校アンケート

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握し、教育活動の改善に役立てることを目的として実施しています。今年度は、中学校英語がコンピュータを使って回答する CBT 方式で実施されました。

また、IRT（学力を測る方法）を活用し、平均正答率だけでなく、問題の難しさや学力の分布などにも着目して、子どもたちの学力を多面的に捉える方法が取り入れられています。

本村では、調査結果を全国や大阪府との比較だけで捉えるのではなく、「どのような力が身に付いているのか」「どのような力をさらに伸ばしていく必要があるのか」という視点から分析し、今後の教育活動に生かしていきます。

【学力調査（小学校）】学んだことを活用して考え、表現する力を育てる

（国語）文章の内容を読み取ったり、必要な情報を整理したりする力が身についています。基本的な漢字の書き取りもできていました。今後は、複数の情報を関連付けて考えたり、自分の考えをまとめたりする力を伸ばしていけるようにします。

（算数）基本的な知識や技能を活用して問題を解決する力が身についています。無解答率も低く、最後まで粘り強く問題に向き合っていました。今後は問題場면을正しく捉え、図や式、言葉を用いて自分の考え方や解決の過程を説明する力を伸ばしていきます。

【学力調査（中学校）】各教科で身に付けた知識や技能を活用し、考えたことを自分の言葉で表現する力を育てる

（国語）文章から必要な情報を読み取ったり、内容を整理したりする力がついています。今後は複数の情報について条件をふまえながら、自分の考えについて根拠を明確にして書く力を伸ばしていきます。

（数学）基本的な知識・技能を活用して問題を解決する力が身に付いています。今後は数学的な表現を用いて、自分の考えや解決方法を説明する力を伸ばしています。

（英語）聞くことや読むことについては、必要な情報を聞き取ったり、短い文章を読んで概要を捉えたりできています。今後は書くことの領域で、まとまりのある文章を書く力を伸ばしていきます。

【教育委員会・学校の今後の取り組み】

学力調査から見てきた課題を学校と教育委員会で共有し、授業改善につなげていきます。特に、知識や技能を身につけるだけでなく、それらを活用して考え、自分の考えを表現する力を育てる授業づくりをしていきます。また、小中学校間で実践や課題を共有し、9年間の学びを見通した取組を進めていきます。ICTについても、学習の目的に応じて効果的に活用し、一人ひとりの学びを支えていきます。

【学習状況調査（児童生徒アンケート）より】

児童生徒アンケートからは、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考えたり、友達との話し合いを通して自分の考えを深めたりしながら学んでいる様子が見られました。また、ICT 機器を活用して情報を集めたり、整理したり、発表したりするなど、学習の目的に応じて ICT を活用する姿も見られました。今後は、学習したことを振り返り、次の学習や実生活につなげていくことについて、小中の連携もしながら、さらに伸ばしていけるよう取組を進めていきます。

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力を順位付けするためのものではありません。調査結果から子どもたちの学びの姿を捉え、日々の授業や教育活動をよりよくしていくために活用しています。